

世界農業遺産

徳島・剣山の傾斜地農耕システムの可能性

をめぐす

GIAHS

GLOBALLY IMPORTANT AGRICULTURAL HERITAGE SYSTEMS



世界農業遺産の 思想と実践に学ぶ

2016.3/11 金 13:00~ (受付:12:30)

会場:徳島大学 常三島けやきホール

参加費:無料 要事前申込(先着250名)

参加申込:0883-62-3111 syoukou@town.tokushima-tsurugi.lg.jp(協議会事務局)

※徳島大学の駐車場は利用できません(シャトルバスまたは、公共交通機関をご利用ください)

12:30~受付

【第1部】

13:00~13:15 あいさつ:兼西 茂(徳島剣山世界農業遺産推進協議会会長、つるぎ町長)
吉田 和文(徳島大学副学長)
小谷 敏弘(徳島県政策監補)

13:15~13:20 趣旨説明:内藤 直樹(徳島大学 総合科学部 准教授)

13:20~13:50 「世界の食料安全保障とFAOの活動—世界農業遺産の視点」
武本 直子(国際連合食糧農業機関(FAO)駐日連絡事務所)

13:50~13:55 休憩

13:55~14:25 「日本の世界農業遺産の意義とその活用」
イヴォーン・ユウ(国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)研究員)

14:25~14:55 「徳島・剣山の傾斜地農耕システムがもつ潜在力」
内藤 直樹(徳島大学 総合科学部 准教授)

14:55~15:10 休憩

【第2部】

15:10~16:10 パネルトーク「世界農業遺産候補地としての可能性」
コーディネーター:内藤 直樹(徳島大学 総合科学部 准教授)
パネリスト:講演者全員、小泉 靖雄(西瀬農産加工研究会 会長)

世界農業遺産とは、世界的に重要な農業システムを国連食糧農業機関(FAO)が認定する仕組みです。にし阿波の山間部で暮らす人びとは、急傾斜地という厳しい環境で農業を営むために、驚くほど理にかなった工夫を凝らしてきました。地域の人が培ってきた農業や土地利用にかかわるユニークな知識・技術・制度・価値観や信仰の体系は、この地域特有の美しい景観や多様な動植物を育んできました。このシンポジウムでは、世界農業遺産プログラムが開始された背景や趣旨および世界や日本での取り組み事例を検討しながら、にし阿波地域で培われてきた在来農業の特徴や可能性を再発見します。そして在来農業を地域社会さらには人類全体の未来をひらく資源として活用していくための可能性や課題について考えます。



アクセス

徳島大学 常三島キャンパス 地域連携プラザ 常三島けやきホール
JR徳島駅下車徒歩30分。
徳島市営バス「助任橋」又は「徳島大学前」又は「徳島大学南」
下車徒歩5分

お問い合わせ

徳島県美馬郡つるぎ町貞光字東浦1-3
徳島剣山世界農業遺産推進協議会(つるぎ町役場商工課内)
TEL 0883-62-3111 FAX 0883-62-4944
syoukou@town.tokushima-tsurugi.lg.jp

世界農業遺産の 思想と実践に学ぶ

古くは“ソラ”とよばれたにし阿波の山間部で暮らす人びとは、ときには斜度30度以上にもなる急傾斜地という厳しい環境で農業を営むために、驚くほど理にかなった工夫を凝らしてきました。地域の人が培ってきた農業や土地利用にかかわるユニークな知識・技術・制度・価値観や信仰の体系は、この地域特有の美しい景観や多様な動植物を育んできました。しかし、こうした在来農業や土地利用の工夫およびそれらに関わる文化・景観・生物種は、社会や農業の近代化のなかで危機に瀕しています。たしかに大量生産・機械化・効率化などを至上とする「近代的農業モデル」の価値観に基づけば、在来農業は魅力的でないかも知れません。しかしながら、エネルギーの持続可能性や食料の安定供給、あるいは土地に対する価値観や想いといった観点からは、在来農業の重要性は今後ますます高まるかもしれません。また、とくに今世紀以降の世界各地では在来農業や文化にもとづく観光開発や文化運動が盛んになっています。このシンポジウムでは、世界農業遺産プログラムが開始された背景や趣旨および世界や日本での取り組み事例を検討しながら、にし阿波地域で培われてきた在来農業の特徴や可能性を再発見します。そして在来農業を地域社会さらには人類全体の未来をひらく資源として活用していくための可能性や課題について考えます。

内藤 直樹 (徳島大学 総合科学部 准教授)

博士(地域研究)。東アフリカの牧畜社会を対象に、地域で培われてきた知恵や価値観等にそくした開発・平和構築・難民支援に関する研究をおこなってきた。著書に『社会的包摂/排除の人類学: 開発・難民・福祉』、『メディアのフィールドワーク』などがある。

武本 直子 (国際連合食糧農業機関(FAO) 駐日連絡事務所)

米国ハーワード大学大学院博士課程修了(アフリカ研究)。民間企業、外務省派遣業務等を経て2005年より現職。世界の食料・農業問題等に関する国内の理解向上、日本政府や援助関連機関との連携協力関係強化に努める。

イヴォーン・ユウ (国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS) 研究員)

シンガポール出身。2012年より現職。日本と韓国における世界農業遺産地域の保全や認定申請の技術的助言をおこなうとともに、日中韓の農業遺産を対象とした研究に携わってきた。東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻博士課程(国際水産開発専門)に在籍中。

小泉 靖雄 (西瀨農産加工研究会 会長)

美馬市穴吹町口山測名地区に生まれ育ち、傾斜地やカヤを活用した山地農業を営みながら、旧穴吹町議会議員として地域の発展に尽力してきた。「西瀨農産加工研究会」を設立し、特産品づくりをおこないながら、地域活性化や社会貢献プロジェクトをおこなっている。



世界農業遺産 GIAHS

GLOBALLY IMPORTANT AGRICULTURAL HERITAGE SYSTEMS

臨時駐車場とシャトルバス

吉野川橋下臨時駐車場(無料)
臨時駐車場から会場までの間を無料シャトルバスが運行します。

【無料シャトルバス 運行時刻表】

臨時駐車場発(12:15) — 大学行シャトルバス
大学発(16:20) — 臨時駐車場行シャトルバス

にし阿波からの送迎バス

1号車(三好市 — 東みよし町経由)
【往路】 船井跡地(10:30) —
吉野川ハイウェイオアシス(10:50) — 徳島大学(12:20)
【復路】 徳島大学(16:20) —
吉野川ハイウェイオアシス(17:50) — 船井跡地(18:10)
2号車(つるぎ町 — 美馬市経由)
【往路】 貞光ゆうゆう館(11:00) —
美馬市役所(11:20) — 徳島大学(12:30)
【復路】 徳島大学(16:20) —
美馬市役所(17:30) — 貞光ゆうゆう館(17:50)

会場までのアクセス

会場: 徳島大学 常三島キャンパス
地域連携プラザ 常三島けやきホール
*当日は入試準備中のため、けやきホール以外の建物への立ち入りはできません。
JR徳島駅下車徒歩30分、
徳島市営バス「助任橋」又は「徳島大学前」
又は「徳島大学南」下車徒歩5分



●臨時駐車場拡大マップ

お問い合わせ

徳島県美馬郡つるぎ町貞光字東浦1-3
徳島剣山世界農業遺産推進協議会
(つるぎ町役場商工観光課内)
TEL 0883-62-3111 FAX 0883-62-4944
syokou@town.tokushima-tsurugi.lg.jp



「徳島剣山世界農業遺産推進協議会」
ホームページ
<http://giahs-tokushima.jp/>